

平成 25 年 2 月 25 日

嬉野市議会
議長 太田重喜 様

産業建設常任委員会報告書

産業建設常任委員会
委員長 田中 政司

平成 24 年 12 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則 100 条の規定により報告する。

付託事件名 長崎国際観光コンベンション協会の取り組みについて

調査理由

観光都市長崎市において「長崎さるく」や「コンベンション誘致事業」などを展開し、観光客誘致へ向けた取り組みをされている一般社団法人長崎コンベンション協会を視察し、今後の嬉野市が展開する観光戦略のひとつの参考になればとの考えから。

調査内容

「長崎さるく」のコースのひとつを 2 時間程度にわたり体験し、ボランティアガイドの方より説明を受け、その後市役所において長崎市観光政策課及び長崎観光コンベンション協会の担当者より説明を受けた。

以下その内容

I. 長崎国際観光コンベンション協会の概要

名称 一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会

会長 川添 一巳（ラッキー自動車（株）取締役会長）

経緯 平成 7 年 10 月 2 日 社団法人長崎市観光協会と長崎コンベンションビューローが 1 本化し「社団法人長崎国際観光コンベンション協会」に名称を変更。
平成 24 年 4 月 1 日 「一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会」に名称を変更。

目的 長崎市及びその周辺地域の観光及びコンベンション事業の健全なる振興並びに地域の活性化を図り、併せて産業経済の発展と文化の興隆に資するとともに国際観光及び国際コンベンションの振興を促し、もって社会公共の福祉増進と国際親善に寄与することを目的とする。

II. 事業

1. 総務・運営管理

① 経営委員会主導による事務局の運営

- ② 歓迎受け入れ態勢の充実強化
 - ③ 長崎市からの受託事業
総合観光案内所や各施設などの受付業務の受託
 - ④ 売店、喫茶室などの運営及び協会事業運営の円滑化のための収益力向上
 - ⑤ 公益法人制度改革への対応
2. 国内誘致・受け入れ事業
- ① 修学旅行誘致対策宣伝活動及び受け入れ整備
長崎市の観光誘致施策に伴う誘致活動など
目標 1,961 校 30 万人
首都圏公立高校誘致活動 目標 35 校、13,750 人
 - ② 観光客誘致対策宣伝活動
単独事業の「長崎さるく」や「マダムバタフライフェスティバル」などの実施や他団体との共済事業の実施による観光客誘致事業及び宣伝活動。
着地型観光商品を活用した誘致活動（単独事業）
物産展での観光キャンペーン（共催事業） など。
 - ③ 観光情報の提供及び発信
長崎観光お客様ネット事業の充実（インターネットによる情報発信） など
 - ④ 観光客受け入れ事業
「長崎さるく」の企画・運営
さるく参加目標 4 万 7,000 人
(通さるく 3 万 7,000 人 、学・食さるく 1 万人)
遊さるく 45 コース、 通さるく 29 コース、
さるく参加費 中学生以上 500 円
さるくガイドの育成、パンフレットの作成、ホームページ運営 など
3. 海外誘致・受け入れ事業
- ① アジア観光客誘致推進事業
韓国、中国、香港、台湾、タイ・シンガポール、などの現地エージェント
に対する誘致活動。
 - ② 受け入れ態勢の充実
国際観光船受け入れ活動
平成 24 年度国際観光船入港予定数 62 隻
その他長崎市の国際観光事業
4. 商品企画・他都市連携
- ① 着地型旅行商品造成と販売ルートの開発
着地型旅行商品 目標人員 2,500 人
 - ② 長崎さるく等事業関連の商品造成
長崎観光サンキューパスポートの発行
長崎さるくマップブックの作成・販売
長崎さるく手形の作成・販売
長崎さるく回数券の作成・販売 など

- ③ 教育旅行対象の商品造成
 - 修学旅行誘致に特化したパスポートを作成し、ガイドブックとしての役割も果たす。
- ④ 長崎グッズの活用
- ⑤ 観光行事・イベントによる旅行商品の造成
- ⑥ ながさきの「食」の活用
- ⑦ 他都市連携
- 5. コンベンション振興
 - ① コンベンション誘致活動
 - 首都圏への誘致活動やM I C E 担当者を対象にした視察ツアーなどの企画。
 - ② コンベンション受入れ・支援の強化
 - コンベンション開催補助金（交付予定数 21 件、3,610 万円）
 - ③ 協会会員に対するコンベンション情報の提供及び発信
 - ④ コンベンション誘致・支援体制の強化
 - ⑤ 大型コンベンション施設建設促進
- 6. 会議・運営及び調査
 - ① 総会、理事会、監査会及び専門委員会の開催
 - ② 観光・コンベンション諸会議、会合、諸行事への出席
 - ③ 公益目的支出計画の実施及び報告
 - ④ 新人会員の拡大
 - ⑤ 先進地視察
 - など
- 7. 各種印刷物による広報宣伝
 - ① 観光ガイドマップなどの発行
- 8. 長崎市ペーロン協会、長崎ペーロン選手権大会実行委員会の運営
- 9. 長崎ハタ揚げ振興会の運営
- 10. 長崎観光龍踊り会の運営
- 11. 長崎市宿泊施設協議会の運営
- 12. ロマン長崎選彰委員会の運営
- 13. 「マダムバタフライ」を活用した国際観光都市長崎プロモーション事業実行委員会の運営

III. 組織及び予算

1. 組織

役員数 会長 1 名、副会長 3 名、専務理事 1 名、理事 31 名、監事 2 名
合計 38 名

職員数 専務理事 1 名（市経済局長兼務）、市派遣職員 2 名、
プロパー職員 7 名、契約職員 7 名、プロパー嘱託職員 9 名
民間派遣職員 2 名（事務局長含む）

事務局合計 27名
会員数 475名

2. 予算

一般会計

収入 2億6,087万円

会費収入 2,500万円（市、長崎商工会議所、一般会員）

補助金収入 1億2,682万円（長崎市）

受託収入 5,944万円（長崎市からの受託収入）

負担金収入 520万円

コンベンション開催

補助金 3,610万円（県、市それぞれ1/2）

など

支出の主なもの

誘致宣伝受け入れ事業費 1億1,927万円

さるく運営事業費 6,952万円

残りは受託事業にかかわる支出（人件費等）

特別会計

収入 3億5,835万円

売上金収入 3億2,530万円

さるく事業収入 2,827万円

その他手数料収入など

支出の主なもの

各売店における仕入及び人件費などである。

売り上げの中より繰り出し金として760万円を一般会計へ

委員会の意見

「長崎さるく」については、平成18年に「さるく博覧会」が開催されたことを契機に、現在はコンベンション協会が企画・運営をされておられ、自由気ままな散策を楽しんでいただくための「遊さるく」やガイド付きのコースなど現在45コースが設定されており、その案内をボランティアガイドさん420名の方で案内しておられ、年間25,000人～30,000人が参加しておられる。

市やコンベンション協会では、街づくり人づくりの一環としてこの「長崎さるく」をとらえておられ、「地元の良さを発見し磨いていくのは地元の人である」という担当者の話には感銘を受けた。また、今回45コースある中の1コースをガイドさんの案内で実際に体験させていただき、ガイドさんの説明や話を聞く中で、担当者の話を改めて実感した。

コンベンション協会の事業内容は、嬉野市の行政や観光協会が行っている観光事業とすればその規模は違っているものの、中身についてはさほど変わらないように感じられた。しかし、市観光課の担当者の説明の中で「行政と民間（コンベンション協会）

は対等な立場で車の両輪としてとらえており、行政は長崎観光戦略をベースに観光の基盤整備を行い、民間（コンベンション協会）はその基盤の上で経済効果を生むような戦略を考え、市民とともに実行していくことが大切だと考えている」との言葉には、行政と民間（コンベンション協会）、市民がそれぞれの役割と役目をはっきりとらえ、官民一体となって長崎の観光事業発展に取り組んでおられる姿がみてとれた。また、嬉野市とは比較にならないほどの長崎市観光事業の力強さを感じた。

今後、嬉野の観光事業の発展のためには、行政や観光協会、商工会、市民の観光事業の役割分担と役目をはっきりさせることが重要であり、観光事業を同じ価値観で取り組める方法と体制づくりが急務である。